

活動報告

ガンカモ調査集会&研究集会
in 伊豆沼

神山 和夫

12月13日に宮城県栗原市の伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターで、ガンカモ類をテーマにした研究集会を開催しました。時まさに伊豆沼・内沼には5万羽を超えるマガンが集まっており、集会には絶好のシーズンでした。

1. 集会での発表内容

今回の集会ではガンカモの調査と地域の環境保護活動を絡めた発表が多く、会場にお越しいただいた方々も民間や行政で環境保護活動に関わっている方が多かったようです。どの発表もおもしろかったのですが、いくつかピックアップしてご紹介しましょう。

衛星追跡にもとづく陸ガモ類3種の春の渡り経路と移動パターン。平岡恵美子ほか

東京大学の平岡恵美子さんが発表されたカモ類の衛星追跡では、春の渡りでオナガガモが日本列島沿いに北上するのに対して、マガモとヒドリガモは日本海を越えて渡るルートも存在するという事を教えていただきました。もし秋の渡りがこの逆コースであれば、バードリサーチで行っているガンカモの初認調査ではオナガガモは北から順に初認が届くということが予想できます。今期スタートした初認調査でその傾向を捉えたかったのですが、残念ながらまだ報告件数が少なく細かい飛来パターンが分かりません。来年は飛来順序が分かるようにしたいので、ぜひ皆様の御協力をお願いいたします。

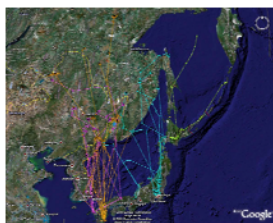


図. 春のマガモの渡り経路。

◆ガンカモ類の初認調査のページ

http://www.bird-research.jp/1_katsudo/moni1000/gankamo/shonin.html

大山上池・下池ラムサール湿地登録地・都沢湿地
宮川道雄

尾浦の自然を守る会の宮川道雄さんからは、昨年秋にラムサールサイトに登録された山形県の上池・下池の保全活動についての紹介がありました。下池のそばの休耕田(都沢)にジグザグの水路を造り、下池から流れ出る水を自然浄化する施設を作ったところ、その場所の湿地環境がカモやクイナの仲間の生息地になったそうです。都沢は7haの小さな湿地ですが、それでも浅い水域を作ることで豊かな生物相ができあがるということが印象的でした。

2. マガンの飛び立ちと蕪栗沼・化女沼

翌14日の早朝はマガンの飛び立ち観察会にレーダーを持ち込んで、上昇していくマガンの軌跡をレーダーに映して見てみようと思いました。しかし、マガンの群はぐるぐる回る変なもの(レーダー)の上空をきれいに避けて飛んでいくので、この試みはあまりうまく行きませんでした。それでも、迫力あるマガンの飛び立ちと、遠くの水面に1羽だけいたハクガンを探して、皆さんには楽しんでいただけたようです。

そしてこの日はさらに、ラムサールサイトの蕪栗沼と化女沼を訪ねました。化女沼は前述の上池・下池とともに昨年秋にラムサールサイトに登録されたばかりの場所で、亜種ヒシクイの日本最大の越冬地になっています。化女沼はねぐらとして夜間に利用されているのですが、運よく近くの水田で亜種ヒシクイを見つけることができました。また蕪栗沼で泥だらけになってマコモの根っこを掘っているオオハクチョウには野生の迫力があり、餌付け場のオオハクチョウしか見馴れていなかった私には新鮮な光景でした。



写真. 蕪栗沼で解説を聞く。

最後になりますが、会場の便宜を図って下さった嶋田哲郎さん(伊豆沼・内沼環境保全財団)、エクスカージョンの案内をして下さった池内俊雄さん(雁の里親友の会)と鈴木耕平さん(蕪栗ぬまっこくらぶ)、そして集会にお越し下さったすべての皆様にお礼を申し上げます。

図書紹介

鳥類の人工孵化と育雛

山崎亨(監訳) 笹野聡美・田上真紀(編) / 文永堂出版 定価 12,000円(税別)

バードリサーチにも時折、傷病鳥や拾ったヒナをどう世話したらよいかといった問い合わせがあります。ぼくはブンチョウやウズラの飼育経験はありますが、傷病鳥の飼育経験はほとんどなく、なかなかちゃんとした答えをすることができません。

文永堂出版からご寄贈いただいたこの本は、Blackwellから出ていたHand-Rearing Birdsの訳本です。飼育法からリハビリ、野外復帰までを日本語で読める貴重な本です。かなり具体的に飼育法が書いてあるので、これがあ

れば、これからはある程度答えられそうです。実際にヒナを拾うことはなかなかないでしょうが、アマツバメのヒナは木箱の壁にしがみつけて育てるとか、なるほどなと思うような飼育方も載っています。高価な本ですが、傷病鳥の野外復帰などに興味のある方はぜひ、見てみると良いと思います。【植田睦之】

